

巻 頭 言

岩橋 明子

〈IMC-7に参加して〉

IMC-7 (International Mobility Conference-7) 第7回世界歩行会議がオーストラリア・メルボルンで開かれ、日本からも20名を超す参加者があった。これまでの6回にはいつもごく限られた少数の参加しかなかったのだが、今回このように多数になったのにはオーストラリア側にも大きな力入れがあったといえる。1986年にWBU訓練雇用委員会があったとき、ホールズワース氏から1994年のIMC-7をオーストラリアで開きたいが日本からも大勢出席して貰えるだろうかとの相談があった。それ以来8年がかりの準備だったわけである。

ホストはオーストラリア盲導犬協会で、メルボルン郊外のキューに本部を置くこの協会は、1951年に英国からDr.アーノルド・クックが連れて帰ったドリーナがきっかけとなって、オーストラリア西部のパースでその活動が始まった。最初は建物もなく貨車の中古を使っていたというが、やがて1962年現在地に移った。各州に支部を置き、全国を対象として60年代後半にはソニックガイドなどの導入やロングケーンによる歩行訓練も始め、単に盲導犬事業のみでなく、より広い意味での行動訓練所として活動すると共に、ラトロープ大学と協力してOM指導員養成の修士課程設置を目指すなど大きな業績を重ねてきた。1970年には日本ライトハウス、ニュージーランド、ハワイに盲導犬事業を開始するための指導協力を提供し、1971年には盲導犬指導員の養成も行った。現在、年間予算は約4億円、昨年度は200頭余りの子犬をパピーウォーカーに預けたほか何等かの訓練指導を受けた視覚障害者は4172名と報告されている。収入中、政府補助金13.8%、各州支部納付金83.8%、その他2.4%となっており、カタログによる通販など募金活動に頼っているが、この所の経済不況のため深刻な苦労があると見受けられた。ヤラ川沿いの広大な敷地に建てられた明るい施設からは想像し難い色々な問題があるらしく、何処も同じという感があった。

今回の会議も2年くらい前に案内がきた頃は、すべてのセッションに日本語

の通訳が付くとのことで安心して大勢申し込んでいたが、最終段階になってから予算の都合でつけられなくなったとの連絡があり、なんとか協力してほしいという要請にこちらも背に腹はかえられず、急遽参加者が負担金を払ってどうか主なセッションだけには同時通訳が付けられたといった裏話もあり、お世話くださった方々は本当に大変だったと思われる。今回のもう一つのトラブルは世界盲導犬学校連盟 (IFGDSB) の総会が同時に開催される予定だったのに急に取り止めになったことであった。昨年夏頃からキューの本部で常務理事をはじめかなりの退職者があって、どうしたことかと思っていたが、今回行ってみてなんとなく推察できたような気がした。IFGDSB の総会は今年4月に英国で開かれることになり IMC-7 では盲導犬関係はごく一部に含まれたのみとなったが、関係者とは何人も会って話すことができた。目立ったのは昨秋オーストラリア盲導犬協会から独立したクィーンズランド盲導犬協会の動きであった。それまではクィーンズランド州支部として強力なメンバーであったが、永年キューの本部で盲導犬事業部の責任者であったゴスリング氏を迎え、組織的にも強化して独立してしまったわけである。訓練士も更に2名ニュージーランドで訓練中でその人達が帰ってきたら子犬の繁殖から訓練まで一切が可能になる予定で、それまではニュージーランドから犬を輸入して事業を始めている。

なぜこのようなことになったのかは部外者にすべてが分かるわけではないが、最大の原因は前記の納付金にあることは確かであった。各州の中でもクィーンズランドは募金活動も盛んで一番多額の納付金を納めてきたが、本部からの配分は必ずしもそれに見合ったものではなく、それならば独立して自力で集めた資金を自由に使って活動したほうが良いと言う結論に至ったらしい。本部のお膝元のメルボルンで各国の関係者と交流を深めたり、食事に招いたりして自分たちの立場を堂々と説明するなど、まことにおおらかなものであったが、去られた側は余り気分の良いものでもないだろうし、両方に親しい人がいるとこちらもなんとなく複雑な立場に置かれたような感じだった。国内に同じような事業をする団体が幾つもあるとお互いに色々問題があるもので、一つの団体が全国に支部を持って活動するという理想的な姿として見ていたのだが、逆行するような結果となり、今後他にも後を追うようなところが出ればどうなるのかちょっと気に掛かるところである。もう一つオーストラリアで気付いたことは紫外線予防の意識の強いことである。会議資料の入った鞆を貰うと中には日焼け止めがいてあるし、ブリスベンなどでは子供を直射日光に当てないように屋根付きの遊び場を作るとか…。オゾンホール脅威は南半球では深刻らしい。なにかと住みにくい世の中になったものというのが今回の印象であった。